

はなごの



題字 瑞龍寺 起龍軒老大師

第47号

令和4年7月20日

発行:臨濟宗妙心寺派

北海道教区

忘俱牛人

講 八 第



令和四年度花園会推進テーマ

おかげさま

向き合い

よりそう

—衆生無辺誓願度—

十牛図 第八講「人牛俱忘」

札幌市 瑞龍寺 起龍軒老大師

「口はわざわいの門

口を慎めば

世界の不幸は半減する」

只今、世の中は、戦争・疫病・気候変動と連続して起きています。毎日、朝起きたらニュースとして接しています。その情報量が多く、整理も出来ないまま、次の日は又新しい出来事として心の中では混沌のまま受け入れています。日々こうして忙しく生活しています。経済状況も変われば生活も不安で大変です。

さらに、わたしたちは一瞬のうちに世の中の事件と関わって生きています。数秒ごとに映像化され、言葉が発せられます。フェイス、ニュース、プロバガンダ(宣伝)なのかも知りようもない外からの情報で満ちています。

ある時の当山の坐禅目標は、「今日一日、早朝坐禅の始まりは心を一度リセットしましょう」です。何も思わない心を養っていくことです。上の図の円相は中は空洞です。何を表わしているのでしょうか。日常の例えがあります。ある時、寺の本堂の本尊様の前になって眠っている人がいました。和尚がとがめてしまいました。その人は言いました。「仏様に抱かれて寝てしまいました。」と。

仏の中の世界では世俗の価値感を越えた「無心」の法の世界の出来事ではないでしょうか。

「ご挨拶」

北海道教区宗務所長
室蘭市 法眼寺住職 船場一謙

コロナ禍も三年目を迎えました。この間、教区・部内行事の殆どが中止になり決議も書面認証となりました。花園会会員の皆様、各寺院住職、寺族の皆様には教区活動に対し、深いご理解とご尽力をいただき誠にありがとうございます。

今年度は教区総会、花園会役員会を始めとして花園地方大会等々例年通りの活動が執行されることとなりました。全ての行事が無事に円成いたしますようご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

さて、コロナ禍右往左往の二年余りを振り返って皆様は何を感じられましたか。三年前はコロナ死という不安と恐怖と緊張の生活でした。今のこの時代に疑心暗鬼の生活に多くの人が陥るなんて想像も出来ませんでした。しかし、現在はワクチン接種がすすみ治療薬も開発されてコロナ禍以前に戻りつつあります。改めて人間の素晴らしさと未知なるものに対しての脆さ、慣れるということの愚かさを感じています。

災い転じて福となすと言いますが、今一度自分は生かされているという念いを強くして一日一日を大切に生きていきましよう。

「青少年少女研修会の再開を望む」

北海道教区宗議会議員
霧多布 正宗寺住職 松浦明恭

新型コロナウイルスの発生から三年目を迎え、その間、多くの人が感染症に苦しみ、尊い命が失われ、社会の様相は一変しました。

教区花園会も丸二年間の活動停止を余儀なくされ、分けても第三部では、平成四年七月を第一回に、一度も途切れることなく続いた青少年少女研修会が、令和元年の第二十八回を最後に休止状態に追い込まれている。

この研修会は二泊三日をお寺で過ごし、粥座・掃除・坐禅・法話・写経を僧堂に模して行い、花園会の協力で、地域の自然や歴史、産業などにも触れる。

第三部は南禅寺派を含めて八力寺、会場は輪番制で受け持つ。寝袋一つを抱えて、和尚も子供も本堂で寝起きするし、多額の費用は、主に花園会が負担してくれる。

これまでを振り返ってみると、一千二百名の子供たちの心を耕し、一千人超の花園会員の協力をあおぎ、五名の、閑栖を含む和尚が現身を離れ、他方、五名の正副住職が育ってくれた。

この研修会は、子供と和尚と花園会と地域社会が一円上に繋がっていて、その中心にお寺がある。一日も早く研修会の再開を望むが、灯りはもう少し先のようにだ。

「令和四年度花園会会報発刊にあたり」

北海道教区花園会 会長 菅田信博

未だにコロナウイルス感染が収まっていない今日。会員の皆様にはご健勝にお過ごしのことと拝察致します。世界に目を向けると、ロシアとウクライナの戦争を見るとき、七十六年前の日本を思い出します。何故あのような争いが起こるのか、私には理解ができません。過去を振り返り先人が犯した戦争を教訓に、平和な社会を築いてこそ立派な指導者ではないでしょうか。犠牲になった被災者のご冥福を心よりお祈り致します。

今年度は二年間延期をされていた「北海道教区花園大会」が、札幌市 瑞龍寺を会場に開催する予定です。コロナが落ち着いて無事に開催されることを願っております。

北海道教区臨済宗寺院、花園会会員皆様のご健勝と花園会の隆盛を願ひ、花園大会には大勢の皆様ご参加をお待ち致しております。

シリーズ
こころの
時間

実はインドや中国には

なかつたお棚経(盆のお檀家まいる)

愛媛県大洲市 城願寺住職 五葉光鐵

寺で生まれた私は五才の時に得度をし、小学校一年の時からお棚経にデビューしました。しかし棚経は私にとっ

てはつらいものでした。はき慣れない草履を履いてほったらほったら歩いてると、向こうからやってきた学校の同級生

に「おーい小坊主」と冷やかされる。また、心を寄せている女の子がいる家へ

お参りいくと恥ずかしいからだんだん声が小さくなる、すると住職である父から「こらっ、お経は大きな声で読まなか！」と怒鳴られて、火が出るほど恥ずかしい。法衣を着慣れていないものだから、何十軒も回っているうちに、だんだん着崩れをしておいらん状態になり着物をずるずる引きずり歩きにく

近づくと憂鬱な気持ちになり、こんなこと一体、誰が考えて始めたのだろうか
と恨めしく思ったものです。

ところで皆さんは、棚経という行事を始めたのは誰だかご存じですか？

実は棚経を始めたのはお釈迦さまでもお祖師さまでもなく、なんとなんと江戸幕府だったのです。棚経は仏教発祥の地、インドにはありません。そして仏教が伝わった東南アジアや中国にもありません。江戸時代になってから江戸幕府によって始められた日本独自の行事なのです。

江戸時代になって徳川幕府がキリシタンを禁制するために、お寺が今の市役所のような行政の役割の一端を担わされ、お坊さんが役場の戸籍係のような仕事をしていたのです。そうして仏教を信じていようがいまいが、おかまいなしにすべての人を寺の檀家に押し込みました。今ではちよつと考えられませんが、神社の宮司までも寺の檀家に入らされて、亡くなるとその寺の住職が葬儀をし、戒名を付けて仏弟子になって弔われたのです。

檀家に赤ん坊が生まれるとお寺に届けて、また人が亡くなると葬儀をして、

その記録を寺に備え付けられている過去帳に残していくわけです。

そうしてさらには毎年、お盆になると檀家を一軒一軒まわり、家の仏壇の前でお経を読む棚経には、藩の役人が坊さんに同伴し「仏壇あらため」といって、「お前の家はキリスト教ではなからうな」と一軒一軒確認をしていたのです。

もともと棚経とは日本にキリスト教を入れないための巧妙なシステムで、これについて江戸幕府から出された古文書「切支丹宗門御條目控」が私の寺にも残されていて詳しく書かれています。

このキリシタン禁制は明治時代になって終わりましたが、棚経の風習は現在も続いているのです。棚経は仏教の教えとは無関係なのですが、せめて一年に一度くらいは、お家に和尚さんをお迎えし、家族でお仏壇に手を合わせ、私たちに人間としての尊いのちを下さったご先祖さまに感謝をして手を合わしましょう。いまだコロナ禍ではございますが、私もお盆にはマスク着用でお棚経にまわり、お世話になった亡きお檀家さまに感謝のまことを捧げたいと存じます。

◆こんな行事をしています◆

「コロナ禍で活動出来ない状況」

教区花園会女性部 会長 畠山芳枝

春風が心地よい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか・・・

令和二年、新型コロナウイルス感染症が全世界に感染拡大し、北海道教区での活動は全て中止となりました。教区の活動ともなれば規模も大きく、感染予防対策を考える中で「三密」を、どのようにクリアするのか本当に難しい選択の繰り返しだったと思います。

当初コロナに関する情報は「治療や予防の薬が無い」「高齢者や基礎疾患のある方は重症化するリスクが高い」など、毎日私たちが耳にするニュースはとても恐いものでした。

菩提寺での女性部活動はコロナ拡大の一年目、結局考える余裕もなく殆どの活動は中止せざるを得ませんでした。二年目になりワクチン接種が始まると過剰に反応していた私達も、少し落ち着きを取り戻し、「三密」に気配りし感染症対策に徹底する事で、少しづつ活動を再開しております。ですがウイルスは現在も変異を繰り返す状況ではありません。これからも感染予防を怠ること無く生活をしていただければと思います。そしてこの感染症が一日も早く終息します事を心から願っております。

「是非今年こそは」

教区花園会青壮年部 会長 阿部清光

令和二年二月十二日に本所で青壮年部役員会が開催されて以来、今日まで、新型コロナウイルスの影響により活動が出来ない状況が、気が付くと二年以上も経過しています。

令和三年に予定していた鶴居村での研修会なども中止になり、令和四年二月にも本所での青壮年部役員会も中止になりました。

先日の役員会の中でもコロナ禍の中での活動は、開催することは無理ではないかという意見もあり、出来得る対策を講じて何とか開催したいと説明をし、了承を得る事が出来ました。しかし、課題は山積みになってはいますが、私の考えにもある「お互いの顔を覚え、いざという場合に助けられる体制」を築くためには、そろそろ限界にきているのではないかと思われ、開催をすることにしたいと思っています。

今年度も七月六日から昨年度できなかった、鶴居村での研修会を予定していますが、万全体制で開催したいと思っておりますので、是非多くの会員の方々に参加していただきたいと思っています。

いつかは「コロナがあったよね」と言える時が来るものと信じて、活動を継続していきたいと思っております。是非会員皆さまのお力を貸してください。

「ごあいさつ」

教区寺庭婦人会 会長 船場美保子
市蘭市 法眼寺寺庭

寺庭婦人会会員の皆様にはつがなくお寺の護持に精進のこととお慶び申し上げます。

昨年もコロナ禍の為に全ての行事が中止になりました。私事ながらおかげさまで時間にゆとりができて四十年余り嫁として、母として、そして寺庭として夢中生きてきたいままでを振り返り見つめなおすことが出来ました。寺庭というのは住職が居てはじめてその立場が成り立つという、本当に危うくて不安定な身です。今、息子三人が僧侶となり正直な気持ちほっといたしております。

しかしながらコロナ禍を境に宗教離れがすすみ檀家制度みなおしの急変が迫るなか、改めて寺庭としての務めの大切さが求められております。

本年度はようやくやくにして総会および研修会を開催出来そうです。昨年の事業計画をそのまま執行して予定でございます。

ひとりでは無理でも寺庭婦人会として学び合い取り組んでゆくことで道が開けるのではないかと思っております。あらためまして本年度も宜しくお願いたします。

No.8 瑞龍寺

われら道産子
臨済宗寺院

寺院名

大圓山 瑞龍寺 別格地一級

宗派名

臨済宗 妙心寺派 (東海派)

所在地

札幌市中央区南二条西二十一丁目一八

現住職

皆川 彰久 (室号 起龍軒)

寺号公称

大正五年 (一九一六年)

本尊

釈迦牟尼佛

勧請開山

荻野 獨園 (室号 退耕庵)

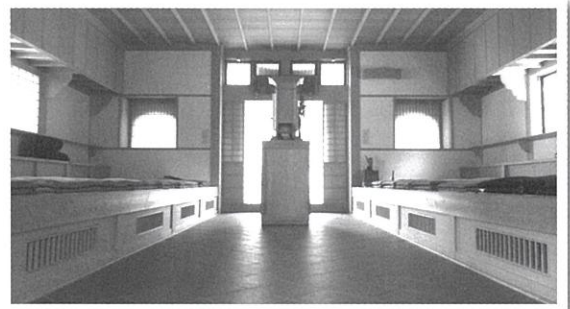
創建開山

松原 盤龍 (室号 江月室)



に位置し、周囲は原野に近かったそうです。今では住宅、マンションが立ち並び閑静な町並みとなっています。行事の中心は北海道場として一般の人、檀信徒を対象に毎日参禅道場の歴史があります。今後は寺の施設を有効に活用出来るような「祈り」の場所として提供してゆきたいと考えています。

当山は昔、百年前にさかのぼれば円山村として、当時の札幌市郊外



臨濟宗妙心寺派

北海道教区寺庭婦人会総会・研修会

日時…………… 令和4年9月7日午後1時30分集合

会場…………… 苫小牧・正法寺（寺庭婦人会）

研修会場…… 白老・ウポポイ（9月8日）

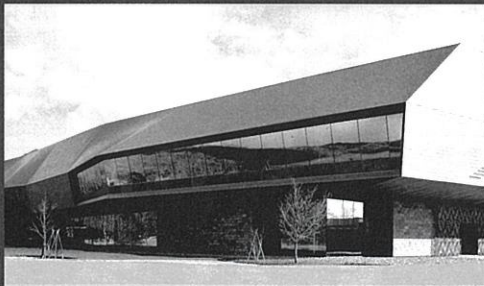
※8日午前研修～昼食後解散となります。

令和四年度寺庭婦人会は「製紙の街・苫小牧」で行われます。また人権研修として「白老・ウポポイ」の見学。日本は単民族国家では無く、和民族とアイヌ民族の多民族国家で有ることをしっかりと勉強し、自己研鑽に役立てましょう。

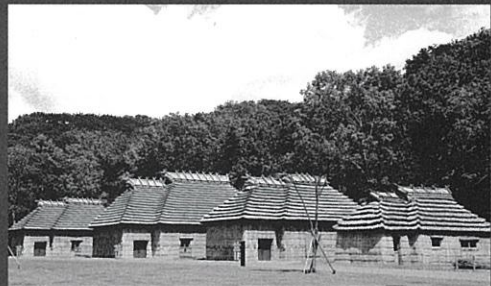


ウポポイ (民族共生象徴空間)

〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3



▲国立アイヌ民族博物館
(アヌココロ アイヌイコロマケル)



▲伝統的コタン
(テエタカネアンコタン)

提供:公益財団法人 アイヌ民族文化財団

今を思う

報復から共生へ

龍源寺住職 松原信樹

古代インドの「アヒンサ」という語には、言葉や行為で他人を殺したり痛みを与えたりすることを避けるという非暴力の意味があります。また、それは、仏教においては、生き物を殺さないという不殺生の意味があります。『スッタニパーダ』という仏典には、「生きものを（みずから）殺してはならない。また（他人をして）殺させてはいけない。また他人の人々が殺害するのを容認してはならない」（三九四条）と説かれています。自分が殺さないだけでなく、他人に殺させてはならない、またそれを認めないところに仏教の不殺生の特色があります。

仏教でいう非暴力とは、相対する人に共生の可能性を理解してもらうことです。それは、黙って言いなりになることではなく、あらゆる手段で暴力を除くように相手の心に訴え、相手の気持ちを変えさせていくことです。つまり、非暴力で闘うということ。実際に、それは、インド・マウリヤ朝のアショーカ王（紀元前三〇四～紀元前二三二）によって政治の場で実践されました。二〇世紀においては、マハトマ・ガンディー（一八六九～一九四八）を通してキング牧師（一九二九～一九六八）に伝えられ、アフリカ系アメリカ人の公民権運動のよりどころとされました。キング牧師の「暴力に対して暴力をもってむくいるということは、なんら効果をもたらさず、かえって宇宙のなかの憎しみを強めるにすぎない」（雪山慶正訳『自由への大いなる歩み』）という言葉は、「怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息（や）むことがない」という『ダンマパダ』の仏典に収載されている言葉と一致します。

現在、ロシアがウクライナに侵攻しています。ロシアにも、カルムイキア共和国、ブリヤート共和国など仏教徒の多い国があります。「アヒンサ」いわゆる「不殺生」、「非暴力」の主張が今ほど重要な意味を持つ時代はなく、今後、社会的変化をもたらす力強いモラルとして、益々重要なものとなっていくことでしょう。犠牲になられた方々の尊い命を悼み、平和の実現を心よりお祈り申し上げます。

◆ こんな行事をしています ~各部の花園会活動~ ◆

「坐禅で調う心と身体」

北海道教区第一部 宗務支所長
苦小牧市 正法寺住職 中山瑞源

令和三年度も感染症により第一部の活動はすべて中止となりました。各寺においては住職の判断により、それぞれの行事が執り行われたことと思います。

昨年の教区報にもございました大禅寺根本紹徹師の「身近な自死問題」ですが、若い方特に女性の増加が多くみられ精神的に悩まれているとのことです。感染症に罹患された方、因果関係は不明とされていますがワクチン接種後に亡くなられた方、重篤な後遺症や副反応に苦しまれている方、お仕事や人間関係に悩みを持つ方。本人並びにご家族が大変な思いをされています。日本の仏教の母山である比叡山延暦寺天台宗の宗祖、伝教大師が入滅され、昨年千二百年の節目でありました。そのお言葉「一隅を照らす此れ即ち国宝なり」と。この社会の一隅にいながら自身が輝き社会を照らしていくという働きを各お寺から発信していきたいものです。坐禅の臍下丹田呼吸法により、『心を鎮めて安らぎを得、腸内環境を整え、免疫力を高める』こうした活動を広め心と身体の健康を保ちましょう。

「今しかない!」

北海道教区第二部 宗務支所長
鷹栖町 田中寺住職 船橋宣裕

現在まで続いているコロナウィルスの中でなかなか部内行事等が思い通りに立ち行かない、歯がゆい状態が続いております。

そんな中ですが、我が寺院のことで恐縮ですが一大事業となる庫裡建設を計画いたしました。昨年度初頭から昨年末にかけて大きな行事ができないことを逆手に取り、今のうちに普段できないことをしておきましょうという決断でした。以前より予定はありましたが決行までは時間が短いこともあり、檀信徒の皆様には大変な負担、不便をおかけすることとなってはしまいましたが、裏を返せば今しか出来なかった事業とも言えるものでした。

現在は何をするにも大きな決断、決意が必要な時期ですが終わってみると今やって良かったと言えることも多く存在しています。

そういったことをやってみるチャンスと捉えてコロナ禍を乗り切っていきましょう!

「現在・過去・未来」

北海道教区第三部 宗務支所長
帯広市 大乘寺住職 豊田応道

この春、閑栖和尚の訃報に相まって近隣デパートの外商チームの出入りが多くなりました。ある時、その中の一人が門前で腕を組み深刻な面持ちの様子。『何かお困りかな?』と近づいてみると門前の掲示板の標語ポスターに何か感じるものがあったのでしよう。そこには『過去を自慢するのは進歩の止まった証拠』と・・・。

これを見て俯き反省の態度。無理もありません、未曾有の新型コロナウィルス事態発生から三年目に突入し、誰もが暗中模索の中、必然と過去の自分と向き合わなければなりません。お蔭様で今年は花園会女性部定例役員会・花園会定期役員総会を無事開催することができました。長年に築き上げてくださった先輩諸氏の諸々の粉骨に感謝し、会員と住職が一丸となって花園会活動の前進に何卒宜しくお願いたします。



「ああ、おとうちゃん」

龍松寺 武久 寛海

師父である先代住職が亡くなってから、大事にしていた睡蓮を、私が手入れするようにになりました。

不可思議なのは、亡くなった翌年からピタッと咲かなくなり、どうしたことかと数年放置していました。のちに思い立って混んでいた株を分け、肥料をやるとようにしたのです。

今年もまた、五月から次々に花芽をつけています。うちではお盆の頃が、

花のラッシュのように感じています。

お盆といえ、小学校の二年生くらいからお盆参りの手伝いをしていました。

年端もいかない子どものごと、さぞかしおぼつかない読経ではなかつたかと、今も冷や汗が出る思い。しかも、訪ねた先に同級生がいたりして、学校で噂になつてからかわれるやら、恥ずかしかったらありやしない。

それでもお伺いしたお家では、「坊ちゃんよう来ちゃんしゃったねえ」「仏さんも喜びよんしゃろう」と言ってくださりホツとしたものです。

ただ、良いことばかりではありません。「子どもなんか寄こして」ですとか、「意味もわからんでお経ば読んで、しっかりお布施まで持つていく」と聞こえたことも：そんなときは道々ベソをかきました。

お寺に戻り、こわい父に「もう行きたくないです」

と訴え

ましたが、

父は「よかどつ、色んな人が居んなさると！ そげんことば言

いよつて坊さんにならるるか！」ガツンと一発。（痛

かったあ、もお）でも、ほん

とうは、父も心で泣いていたか

もしれません。子どもごころに恐ろしい人でしたが、思い出すたびにフツと笑っています。

五十をどうに過ぎたいいオジサンが、朝ひらいたスイレンに、「ああ、お父ちゃん」とつぶやいています（笑）。

見えなくてもお花を供えたい

食べなくても美味を供えたい

聞こえなくても話したい

見えざるものへの真心は美しい



参加してきました ～本山・教区の花園会活動～

「令和三年度寺院役員本山研修会 参加報告」

苫小牧市 正法寺 責任役員 菅原雅夫

令和三年十一月十一日開催の第五十八回寺院役員本山研修会の参加のご案内をいただいた時、丁度米寿を迎えたばかりの私には、果たして大本山妙心寺に行けるかどうか、皆さんに迷惑をおかけしてはと思いましたが、正法寺 中山瑞源住職様が付き添ってくださるとの事で参加させていただく事にしました。

当日、花園会館で受付をしたところ、三年続くコロナ禍の中五十九名の方々が参加され北海道から私一名でした。

先ず最初に目に入ったのは、天井に狩野探幽の見事な雲龍図がある素晴らしい法堂で花園法皇忌半齋の参拝でした。その後、大方丈で開会式を、引き続き開山堂等、普段は拝観できないところを廻り、微妙殿にて昼食、午後からは大方丈で堀尾行覚総務部長様の「寺院役員として」、小林秀巖花園会本部長様の「妙心寺と花園会」をそれぞれ有意義な講座で終了いたしました。今後、身体の続く限りお寺のお役に立てられる様願っております。

本山研修会に参加出来ましたこと深く感謝と御礼を申し上げます。

「おかげさま」

教化主事 観音寺 川邊正道

もう三十年以上も前のニュースで、飛鳥時代の遺跡を発掘していたら「蓮の種」が出土し、もしかしたらと育ててみたところ何と二二〇〇年前の蓮が開花したとの内容でした。

蓮の種も命ですから、勝手に芽を出しても良いように思います。しかし種が発芽するには幾つかの条件があります。たとえば「水」という条件。たとえば「泥」という条件。たとえば「温度」という条件。たとえば「光」という条件。その他にも幾つか必要な条件もあるのかも知れません。そしてその条件は全て「自分では持ち得ていない物」です。

命である種が命として生きる為には、自分には持ち得無い様々な「条件」によって初めて命として動き始めるのです。条件とは「縁」。

これは蓮の種に限った事ではありません。地球上の全ての命は「縁」という条件によってそれぞれの命を輝かせているのです。

自分という命を見つめるとき、数え切れない程多くの「目に見える縁」や「目に見えない縁」が、自分の命を「さあ生きる」と支えてくれていることに気付かされます。おかげさまでありがっし。

花園会決算・ご報告

令和3年度 教区花園会会計決算報告

【収入の部】 ーは予算比減 令和3年4月1日～令和4年3月31日

項目	予算	決算	増減	備考
1. 繰越金収入	2,882,542	2,882,542	0	
前期繰越金	2,882,542	2,882,542	0	前年度繰越金
2. 会費収入	2,473,200	2,473,200	0	
会員割当金	2,473,200	2,473,200	0	会員数×¥400 (6,183名)
3. 助成金収入	275,300	388,080	112,780	
教区推進助成金	130,000	0	-130,000	前年度分教区推進助成金
研修会旅費補助金	10,000	353,580	343,580	前年度の(平和復興×寺院役員研×少年少女研)等の参加に比例する
参拝推進助成金	10,000	10,000	0	
無相教会助成金	25,300	24,500	-800	発展拡充大会・講習会等助成金
その他助成金	100,000	0	-100,000	花園会交流会助成金
4. 雑収入	458	27	-431	
雑収入	458	27	4,342	預金利子
合計	5,631,500	5,743,849	112,349	

【支出の部】

項目	予算	決算	増減	備考
1. 事業費	200,000	0	-200,000	
教区花園大会	0	0	0	隔年開催
花園会役員交流会	200,000	0	-200,000	教区支度金として
2. 助成費	1,430,000	770,000	-660,000	
花園会本部寺院役員研修会	180,000	120,000	-60,000	本山役員研修会(正法寺2名)
花園会本部少年少女研修会	240,000	0	-240,000	引率6万+子供3万×6名分
秋期特別布教花園研修会	300,000	300,000	0	10万×各部へ
各部少年少女研修会	0	0	0	
教区無相教会助成金	250,000	250,000	0	教区無相教会本部への年間活動費
花園会女性部活動助成金	100,000	100,000	0	教区花園会女性部への年間活動費
その他本部研修会	360,000	0	-360,000	
3. 教化費	550,000	347,930	-202,070	
花園会報	550,000	347,930	-202,070	
4. 会議費	300,000	103,000	-197,000	
花園会役員会	300,000	103,000	-197,000	10月
5. 事務通信費	10,000	5,000	-5,000	
通信費	5,000	5,000	0	教化主事へ払切
事務費	5,000	0	-5,000	
6. 雑費	50,000	400	-49,600	
諸雑費	50,000	400	-49,600	
7. 予備費	500,000	30,000	-470,000	
予備費	500,000	30,000	-470,000	会報誌原稿御礼
8. 財政調整基金	1,000,000	1,000,000	0	
財政調整基金	1,000,000	1,000,000	0	
8. 繰越金	1,591,500	2,000,000	408,500	
繰越金	1,591,500	2,000,000	408,500	新項目
合計	5,631,500	4,256,330	-1,375,170	

令和4年度3月31日現在 残金(収入-支出) 1,487,519円 財政調整基金 2,600,000円 繰越金 2,000,000円

おくやみ
生前長らく寺門の
興隆にご活躍されま
した。
ここに教区寺院一同
よりご冥福をお祈り
申し上げます。

室蘭市 護國寺 先寺庭 河野八重子
令和三年六月十日 享年一〇三才ご逝去
帯広市 大乘寺 先住職 豊田洪道
令和四年三月六日 享年八十才ご逝去
厚岸町 報国寺 住職 後藤要宗
令和三年七月二十日 享年九十六才ご逝去

令和4年度 花園会事業計画

令和4年4月1日～令和5年3月31日

年	月	日	事業	会 所	備 考
令和4年	4	11～12	教区役員会・花園会合同役員会	キャッスルホテル釧路	事業報告・決算・事業計画・予算
		4～9	【中止】春季定期巡教	全道	1部4月4日～2部 3部4月13日～
	7	6～7	北海道教区花園会交流会	鶴居PGC	PG・スリーA・晩食・座談会
		12～13	全国花園会会長会	本山	会長・菅田信博
		27～29	少年少女研修会	正宗寺	坐禅・写経・法話・地域研修
	8	26～27	教区役員会・花園会合同役員会	札幌市内	花園大会の打合せ
	9	～	無相教会発展拡充大会	帯広市内	御詠歌講習・奉詠
	10	11	2部秋季特別布教/花園研修会	洪岳寺	講師
		12	1部秋季特別布教/花園研修会	瑞龍寺	同上・会議(13日移動・釧路泊)
		14	3部秋季特別布教/花園研修会	釧路市内ホテル	同上・研修・幹事・正宗寺
		12～14	無相教会全国大会	妙心寺	御詠歌講習・奉詠
28～29		北海道教区花園大会	瑞龍寺	宿泊・会食別ホテルで	
	31～1	平和復興の祈り	未定		
	11	10～11	花園会寺院役員研修会	本山	各部より1名
令和5年	1	17～18	花園会会長会	本山	北海道教区花園会 会長 菅田信博
	2	27	花園会女性部会長会	本山	北海道教区花園会 女性部会長 畠山芳枝
		7	花園会青壮年部会長会	本山	北海道教区花園会 青壮年部会長 阿部清光
	3	25～27	花園会少年少女研修会	本山	3部寺院より

禅

ZEN

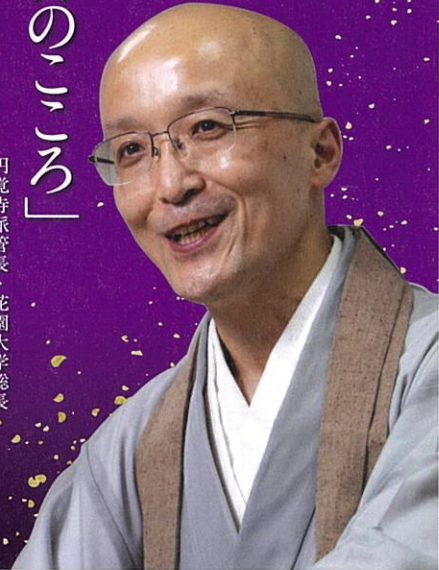
臨濟宗妙心寺派 北海道教区大衆禪堂 札幌禪センター

臨濟禪をきく 講演会

(瑞龍寺開創百周年記念事業 共催)

■仮題 「臨濟禪のこころ」

■講師
円覚寺派管長・花園大学総長
横田南嶺 老大師



■日時
令和4年11月19日(土曜日)
開演15:00(開場14:30)

■会場
札幌禪センター(瑞龍寺 本堂)
札幌市中央区南2条西21丁目1-8

■入場料
無料・定員150名(事前申込制)

■問い合わせ先
札幌禪センター mail : info@sapporo-zen.org

HP <http://sapporo-zen.org>

FB <http://www.facebook.com/sapporo-zen>

事前申込は令和4年9月25日(日)よりHPにて対応致します。

※コロナ感染症の流行状況に応じた感染症対策を施します。
・発熱や体調不良の方の入場はお断り致します。
・マスクの着用・手指の消毒・連絡先の記入をお願い致します。

[主催] 臨濟宗妙心寺派「札幌禪センター」
[共催] 大円山 瑞龍寺・北海道会(本派大衆禪堂)
[後援] 臨濟宗妙心寺派教化センター
臨濟宗妙心寺派北海道教区・教区花園会・北海道臨濟会

編集 後記

▽コロナウイルスの「驚異的」な感染も次第に薄れてきたように感じ始めた今日この頃、ロシアがウクライナへ進攻(侵略?)を始めた。この二十一世紀に戦争などが起こる筈など無いと思っていた考えが、微塵に吹き飛ばされた感覚でもある。

▽この状況を全世界の人が、ほぼ同じように感じる事が出来ると思うのだが、情報規制(国にとって都合な情報を、国民に公開しない)されている国民には、正しい情報など知る余地も無いのだろう。
▽真実の情報が知らされていないロシアの国民もまた、被害者の一人であり、戦争が終結した後に残るであろうロシア人に対する差別なども、大きな問題点となりそう。

(発行人) 船場一誠
(編集者) 川邊正道

小畑瑞穂 船橋宣裕